

## ぼくのふるさと八百名山②

「一億二千万人総登山者化計画」の実際的な行動として、「みんなで登ろう、ぼくのふるさと八百名山」を考えた。一年前、『山の遠足連絡帳』206号で「ぼくのふるさと八百名山」を紹介している。その第2弾。

昨年登った八百名山のいくつかを紹介しよう。北海道では、室蘭岳・恵山・大千軒岳を登り、東北では新庄の杳蔵山、南会津の七ヶ岳、関西、兵庫県の明神山、九州、大分国東半島の千燈岳を登ってきた。

室蘭岳、911m。地形図には、「鷲別岳」とある。室蘭港を見下ろす市民の憩いの山である。歩行時間は標準時間で2時間40分、距離6.5km、会社の同僚や家族連れで登るのに程良い。札幌のICI石井スポーツ主催のバスハイキングで、天気にも恵まれ楽しい一日であった。

恵山、618m。渡島半島の南東部になる亀田半島の先端に位置する複式の活火山。「ぼくの新日本百名山」にも選定している。雰囲気は神津島の天上山に似ていて、千メートルに満たない山なのに、迫力ある山容で人気の山だ。火口原である賽ノ河原までは車道が延びているので、勞せず登れるのがうれしい。

大千軒岳、1072m。松前半島の主峰。江戸時代、キリシタンが弾圧された歴史がある山。松前新道から登り、旧道を下る周回コースがお勧めだが、アプローチの林道が荒れている。山頂一帯に咲いているシラネアオイのお花畑には感動した。

杳蔵山、1027m。山形・秋田県境に位置する神室山を主峰とする神室連峰最南のピーク。中腹に良き足場となる杳蔵山荘があり、市民の憩いの山として良く登られている。昨年、神室山岳塾のお招きで杳蔵山に登り、下って新庄祭りを見学した。

七ヶ岳、1636m。前夜、会津六名館に泊まった。インターネットで見つけた宿だが、ここがチョーハナマルの宿で、無風快晴と相まって最高の七ヶ岳登山ができた。黒森沢沿いの道も快適、下岳への稜線も快適、紅葉も素晴らしかった。登山口まで送ってくれたオーナーが下山口まで迎えにきてくれた。会津六名館、五ツ星の宿である。

明神山、668m。兵庫県から選んだ「ぼくのふるさと八百名山」の内の一山。夢前にあり、播磨富士とも呼ばれる秀麗な山。昨年12月、アルパインツアー大阪支店企画のバスハイキングで登ってきた。地元の方々にも歓待され、爽やかな一日であった。

千燈岳、606m。山の大先輩、藤田晴一さんが、「千燈岳は、国東半島の中央部に位置する両子火山群の一峰で、姫島や瀬戸内海を望む絶景の山」と著書『分県ガイド・大分県の山』で紹介されている。魅惑的な国東半島の魅力的な山であった。

その山だけめざすのは大変なので、メジャーな山との組み合わせを岩崎は考えている。「ふるさと八百名山」であり、「新日本百名山」でもある由布岳は、久住山と組み合わせて4月28日～30日で計画している。資料請求は事務局へ。